

学校の運営計画（4月）		評価（3月）		
学校の運営方針	The Main Creator（社会の変化に対応し、社会を支え、その発展に寄与する人材）を育成する。 Think Globally（国際的な視野をもって考える）とAct Locally（地域で活躍する実践）を前面に出して教育活動を展開することで、The Main Creatorの基盤となる「体力（健康）」「学力（英知）」「豊かな心（情操）」とそれを将来にわたって貫くための「志（フロンティアスピリット）」を伸長させる。			
昨年の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
<p><成果> 生徒の学校行事への満足度と地域社会貢献意識は共に向上しており、学校生活満足度はが80.2%であった。これは、学校行事の充実やインターンシップをはじめとする体験活動を重視したキャリア教育の充実に努めた成果と言える。今年度の受験倍率は1.7倍で高い数値を維持できており、地域・中学生からの期待の大きさを実感できた。「挑戦する高校」をキャッチフレーズにして3年目を終え、生徒が様々なことにチャレンジする校風が根付きつつあり、国公立大学や難関大学への受験者が増加した。</p> <p><課題> 課題の1つは、一部の固定化された生徒の遅刻・欠席が目立ち、学校全体の風紀を損ねている点である。学校への誇りや愛着を一層高めることで校則を守る校風を醸成させたい。2つ目の課題は、家庭学習時間の確保である。学ぶ意欲を引き出し、知識を積み上げる喜びを体感させる授業改善に教職員が全力で取り組むことで家庭学習習慣の定着を図りたい。</p>	1 自己指導能力の育成 ・部活動加入率93%以上 ・出席率99%以上	(1) 体験入部の実施と、成績表彰や掲示による部活動を推進する体制をつくり、高体連躍進校20以内を目指す。 (2) 学年を中心とした指導体制を充実させ、遅刻5回以上の生徒0名を目指す（遅刻常習者の根絶）。 (3) 学校への愛着80%以上を目標とし、規範意識の育成を行うことにより、自己指導能力の育成を図る。		
	2 学ぶ意欲の向上 ・キャリア教育の充実（体験活動の強化） ・課題解決型学習の充実	(1) 体験活動の推進と授業改善（アクティブ・ラーニング）により、学ぶ意欲の向上を図る。 (2) 3年生はセンター受験者50名を目標とし、国公立合格者15名以上を目指す。 (3) 学習習慣の確立と基礎学力の定着を図るため、家庭学習時間1時間以上を目指す。		
	3 地域連携による「北九州愛」の育成 ・幼小中大の交流事業の推進 ・地域と連携した教育活動の充実	(1) 特別支援学校、幼稚園との交流会を定期的に企画し、生徒の活動体験を支援する。 (2) 近隣小学校や中学校との体育的行事や生徒による部活動指導の交流を通して、生徒の自尊感情の育成を図る。 (3) 地域やPTAとの交流に全職員が年1回以上参加することによる「北九州愛」の醸成。		
	4 生徒理解による良好な人間関係の構築 ・多様性の尊重と理解 ・職員間の緊密な情報共有による生徒理解	(1) 生徒との面談期間の設定を年2回以上行い、生徒理解に努める。 (2) 会議や各委員会で生徒の情報交換の場を必ず設定することで、早期問題解決を図る。 (3) 多様化する生徒の尊重と理解を図るための人権学習と職員研修の充実。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
学習指導	基本的学習習慣を確立させ、出席率の向上を図るとともに、自己の感情や行動を統制する能力を育成する。	組担任、学年主任、部活動顧問と連携し、遅刻・欠席指導を行うとともに、生徒の変化に配慮し、適切な援助を行う。	A	担任、学年主任の連携のもと指導を行った結果、出席率は99%を超えることができた。一方で、授業態度は一部で主体性に欠けることもあり、授業改善が急務である。アクティブ・ラーニングの実践が生徒の学びに向かう態度を醸成するものと捉え、教職員が積極的に授業改善に取り組み、1時間の授業を大切に、生徒に基礎学力をつけさせる仕組みを構築する必要がある。無線LANが設置され、授業におけるICT環境が整うため、それを生かした授業改善を各教科で実施、共有していきたい。
		授業規律を確立し、主体的に取り組ませることで、授業の中で学力を育成する。	B	
	活動報告会等を通して生徒の自己有用感を高め、共感の人間関係の構築に資する。	A		
	主体的・対話的で深い学びの実践を通して、学びに向かう力を育成し、家庭学習習慣の定着を図るとともに「確かな学力」を育成する。	アクティブ・ラーニングの実践を通して、生徒の学ぶ意欲を喚起し、主体的に学習に取り組む態度を育成する。 授業評価アンケートを通して授業改善を行い、基礎学力の定着を図る。 生徒に身につけさせる「資質・能力」を明確化し、学習内容を精選するとともに、定着のための手段を工夫する。	B B B	
進路指導	早期に自己の将来の目標を持たせ、そのために必要な学力を育成するため、希望制課外、土曜講座を計画的に実施する。また、特に3年生に対しては、受験指導を戦略的にを行い、希望進路の実現に資する。	希望制課外は5月より行い、土曜講座は年10回、小論文講座は3回以上実施する。	A	今年度予定していた進路関連行事は全て計画どおり実施できた。特に本校キャリア教育充実の柱の一つである体験型学習においては、様々な場所・内容の経験・体験が生徒の進路意識を高めるよい契機となった。次年度に向けては、土曜講座を取りやめるため、更に効果的なプログラムを取り入れ、生徒の自己実現に対する意識向上をめざす。また、希望制課外を更に充実させ、進学・就職ともに求められる基礎学力の更なる定着を図る。大学入学共通テスト実施に向けては、情報収集や周知の徹底を図り、万全の態勢で臨みたい。就職についても、企業訪問等を通じて各事業所との密接な関係を築き、就職率100%を継続させたい。
		模試偏差値4.6以上1割増、国公立大受験者40名以上、同合格者15名以上を目指す。	B	
	生徒が主体的に『在り方・生き方』を考え、自己の進路を選択できる能力・態度の育成を図るため、様々な教育活動を計画的・系統的・組織的にを行い、自らの将来を考える機会を適宜設定する。	年4回の校外模試の分析結果を活用し、生徒一人ひとりの学力把握および教科指導の課題整理に努める。 各学年で大学訪問を実施することで学び続けることの意義を認識させ、学習・進学意欲の向上させる。 職業体験講座、進路ガイダンスを1、2年生で各1回実施し、職業観・勤労観の醸成を図る。 2学年生徒全員対象にインターンシップを実施するなど、体験活動の参加者300人以上を目指す。	B A A A	
	基本的生活の確立に向けての学年指導を徹底し、社会規範、校則の遵守の精神の涵養と自己指導能力の育成に努める。	遅刻した生徒に対して学年を中心として面談指導を行うことで、遅刻5回以上の生徒0名を目指す。 校則の遵守、規範意識の育成に向けて学年での指導を徹底し、特別指導対象生徒0名を目指す。 いじめアンケート実施後2日以内の点検・報告を徹底し、早期発見・早期対応を確実に行う。	B C A	
生活指導	自主・自立の精神を育成するため部活動及び生徒会活動の活性化を目指すとともにその成果を表彰することで活動意欲の高揚を図る。	生徒の自主的な行事運営を支援し、生徒の達成感を高めることで学校への誇りや愛着80%以上を目指す。 生徒会活動の活性化を支援し、生徒会役員選挙への立候補者7名以上を目指す。 部活動体験入部により入部の促進を図り、12月末段階での入部率85%以上を目指す。	A B B	各学年において遅刻した生徒への指導を粘り強く行ったが、繰り返し遅刻する生徒は0名とすることはできなかった。また、生徒間の人間関係が起因となり特別指導となるケースがあり、生徒コミュニケーション能力の向上に課題が残った。一方で、本年度はじめと認知する事案は0件であった。今後ともいじめに発展することのないよう早期対応を行っていききたい。生徒は学校行事等に積極的に取り組んでおり、学校への愛着度も高い。生徒会活動、部活動など生徒が主体的に取り組むよう支援していきたい。
		職員研修を年3回以上、公開授業週間を年2回実施し、校内研修の充実に努める。	B	
	特別支援学校交流と幼稚園交流を企画し、生徒の体験活動を支援するとともに職員の研修の機会とする。	A		
	芸術鑑賞や弁論大会を企画し、対象学年と協力しながら事前指導を行い、教育的効果を高める。	B		
研修	校内研修の充実を図り、教員個々の指導力を高め、学校全体の教育力向上につなげる。また、交流事業等の様々な体験活動を企画・実施し、生徒の豊かな心を育むとともに、職員の指導力向上を図る。	美化点検を月に2回実施し、学期毎に全校生徒に状況を伝えることで生徒、職員の美化意識の育成に繋げる。 生徒の健康観察に努め早期発見、早期対応を行う。特にインフルエンザ等の感染症対策に努める。 地域の諸機関等と連携をし、緊急時の対応だけでなく減災に繋がる知識と実践力をつける。	B A B	年3回校内研修を行い、各研修内容について職員の理解を高めることができた。次年度は、授業改善に関する研修を実施し、職員の教科指導力向上につなげる。各種交流事業では、あらゆる体験活動を企画し、参加生徒にとって有意義な機会を提供することができた。引き続きを確実にに行い、次年度も効果的な実施をめざす。 月に2回美化点検を行っているが、結果を元事後指導は掃除担当職員だけで行っているため来年度は事後指導内容も検討していく事も検討する。 インフルエンザ等の感染症の対応については教務と連携を取って対応ができていますので次年度も継続指導をしていく。
		職員の自主的な行事運営を支援し、生徒の達成感を高めることで学校への誇りや愛着80%以上を目指す。	A	
	各学年1月前には週1ペースで担当教員と業務内容の確認を図る。 庶務課として新たな取組を1つ企画実行する。	A C		
	PTA関係の行事を充実させ、参加者が増えるように、役員会や理事会の前に事前準備・計画をたてる。	A		
庶務	情報教育を推進し、情報機器の効果的活用と情報管理の徹底に努める。また、学校ホームページを利用し、適切な情報発信を地域社会に行う。	学校ホームページの職員研修を実施し、全職員がホームページの更新を1回以上行う。 情報機器の保守点検を学期末に実施する。また、個人情報の流出や情報漏えい等がないように学期に1回以上注意喚起する。 保護者連絡メールの登録者数を保護者及び生徒全体の95%以上にし、学校からの情報を保護者・生徒に伝える。	B A B	今年度も学校ホームページの職員研修を実施し、全職員でホームページの更新を行う手順を確認し、各担当者で更新できるよう研修を行った。また、保護者連絡メールの登録者数は、現在90%であり今年も学校行事やPTA活動の連絡に活用できているので、次年度も継続したい。
		個別連絡よりも掲示板連絡を徹底して自己管理能力を高め、HRや学年集会等は伝達内容の充実を図る。 学期に1回程度、家庭学習時間を調査し、学習状況を把握する。(通常:1時間以上、考查前:2時間以上) 面談等を通して早期進路選択の意識付けと生活状況把握に努め、学年団で情報を共有し、チーム体制を確立する。	A C B	
	海外修学旅行の準備と関連させて、基本的学習習慣や集団行動等の意識の向上を図る。 学年と教科間で連携し、学習課題の調整を行う。 体験活動等を通して進路意識の向上させ、活動の記録を蓄積することで、適切な進路指導を行う。	A B A		
	面談や進路ガイダンス等で各自の進路意識を高め、課外等の個別の学習指導を計画する。 自主的に月・週ごとの学習計画を立てさせ、担任が面談を行い学習習慣の確立に向けて指導・助言する。 基本的学習習慣を身に付けさせ、欠席・遅刻者には個別に対応し、その減少に努める。	B B B		
第1学年	基本的学習習慣を確立し、出席率99%以上、出席皆勤150名以上を目指す。また、集合時の静寂維持と自宅学習時間1時間以上実施の定着を目指す。	面談や職員間の連絡は掲示板と日誌での連絡を徹底したおかげで、業務の効率化を図ることができた。一方、生徒の学習状況の実態把握に関しては、年度当初予定していた「学習時間調査」をあまり実施できず、模試等の結果で生徒の学力を判断する結果になってしまったので、次年度は定期実施を心掛けたい。	A B	修学旅行を無事終えることができ、学校生活も比較的落ち着いてきている。進路について真剣に考え、授業に意欲的に向かう生徒も増えているが、学習習慣の定着については厳しい状況があるので、最終学年に向けて意識を変化させるように指導していく必要がある。
		面談や職員間の連絡は掲示板と日誌での連絡を徹底したおかげで、業務の効率化を図ることができた。一方、生徒の学習状況の実態把握に関しては、年度当初予定していた「学習時間調査」をあまり実施できず、模試等の結果で生徒の学力を判断する結果になってしまったので、次年度は定期実施を心掛けたい。	A B	
	海外修学旅行の準備と関連させて、基本的学習習慣や集団行動等の意識の向上を図る。 学年と教科間で連携し、学習課題の調整を行う。 体験活動等を通して進路意識の向上させ、活動の記録を蓄積することで、適切な進路指導を行う。	A B A		
	面談や進路ガイダンス等で各自の進路意識を高め、課外等の個別の学習指導を計画する。 自主的に月・週ごとの学習計画を立てさせ、担任が面談を行い学習習慣の確立に向けて指導・助言する。 基本的学習習慣を身に付けさせ、欠席・遅刻者には個別に対応し、その減少に努める。	B B B		
第2学年	進路実現を図り、四年制大学進学者90名以上、うち国公立大学進学者15名以上、センター受験者50名以上を目指す。学習習慣確立と基礎学力向上のため、家庭学習の時間が2時間以上確保されるようにする。出席率99%以上、皆勤者100名以上を目指す。	面談や職員間の連絡は掲示板と日誌での連絡を徹底したおかげで、業務の効率化を図ることができた。一方、生徒の学習状況の実態把握に関しては、年度当初予定していた「学習時間調査」をあまり実施できず、模試等の結果で生徒の学力を判断する結果になってしまったので、次年度は定期実施を心掛けたい。	A B	四年制大学90名以上、センター試験50名以上受験の目標は果たせなかったが、推薦入試で公立大学不合格の多くの生徒が粘り強く学習を続け、学年として支援し続けることは出来た。全般的に、基礎学力が不足しており、低学年からの計画的な学力向上を目指した指導が必要であると痛感した。基本的学習習慣は、概ね確立できたと思われるが、進路決定後の生活習慣の乱れなども少数ではあるがみられ、早期の言葉かけがもっと必要であったと反省している。
		面談や職員間の連絡は掲示板と日誌での連絡を徹底したおかげで、業務の効率化を図ることができた。一方、生徒の学習状況の実態把握に関しては、年度当初予定していた「学習時間調査」をあまり実施できず、模試等の結果で生徒の学力を判断する結果になってしまったので、次年度は定期実施を心掛けたい。	A B	
	海外修学旅行の準備と関連させて、基本的学習習慣や集団行動等の意識の向上を図る。 学年と教科間で連携し、学習課題の調整を行う。 体験活動等を通して進路意識の向上させ、活動の記録を蓄積することで、適切な進路指導を行う。	A B A		
	面談や進路ガイダンス等で各自の進路意識を高め、課外等の個別の学習指導を計画する。 自主的に月・週ごとの学習計画を立てさせ、担任が面談を行い学習習慣の確立に向けて指導・助言する。 基本的学習習慣を身に付けさせ、欠席・遅刻者には個別に対応し、その減少に努める。	B B B		
第3学年	進路実現を図り、四年制大学進学者90名以上、うち国公立大学進学者15名以上、センター受験者50名以上を目指す。学習習慣確立と基礎学力向上のため、家庭学習の時間が2時間以上確保されるようにする。出席率99%以上、皆勤者100名以上を目指す。	面談や職員間の連絡は掲示板と日誌での連絡を徹底したおかげで、業務の効率化を図ることができた。一方、生徒の学習状況の実態把握に関しては、年度当初予定していた「学習時間調査」をあまり実施できず、模試等の結果で生徒の学力を判断する結果になってしまったので、次年度は定期実施を心掛けたい。	A B	義務制や地域との連携に関しては、同推委員会のメンバーにも協力いただいた。各種研修会の案内については、同推委員長を中心に行なった。同推委員会だよりについては編集作業中である。
		面談や職員間の連絡は掲示板と日誌での連絡を徹底したおかげで、業務の効率化を図ることができた。一方、生徒の学習状況の実態把握に関しては、年度当初予定していた「学習時間調査」をあまり実施できず、模試等の結果で生徒の学力を判断する結果になってしまったので、次年度は定期実施を心掛けたい。	A B	
	海外修学旅行の準備と関連させて、基本的学習習慣や集団行動等の意識の向上を図る。 学年と教科間で連携し、学習課題の調整を行う。 体験活動等を通して進路意識の向上させ、活動の記録を蓄積することで、適切な進路指導を行う。	A B A		
	面談や進路ガイダンス等で各自の進路意識を高め、課外等の個別の学習指導を計画する。 自主的に月・週ごとの学習計画を立てさせ、担任が面談を行い学習習慣の確立に向けて指導・助言する。 基本的学習習慣を身に付けさせ、欠席・遅刻者には個別に対応し、その減少に努める。	B B B		
人権教育	生徒の進級・卒業を100%にするための、各種情報提供、関係機関や地域、義務制との連携に努める。部落差別を初めとする多様な人権課題に対する職員の理解・認識を深める。	同推委員会での生徒情報交換を定期的に行い、必要に応じて地域や義務制とも連携し、修学保障に努める。 各種研修会への情報発信を行うとともに、教職員向けの「同推委員会だより」を発行し、啓発・研修に努める。	B B	義務制や地域との連携に関しては、同推委員会のメンバーにも協力いただいた。各種研修会の案内については、同推委員長を中心に行なった。同推委員会だよりについては編集作業中である。
		同推委員会での生徒情報交換を定期的に行い、必要に応じて地域や義務制とも連携し、修学保障に努める。 各種研修会への情報発信を行うとともに、教職員向けの「同推委員会だより」を発行し、啓発・研修に努める。	B B	
	海外修学旅行の準備と関連させて、基本的学習習慣や集団行動等の意識の向上を図る。 学年と教科間で連携し、学習課題の調整を行う。 体験活動等を通して進路意識の向上させ、活動の記録を蓄積することで、適切な進路指導を行う。	A B A		
	面談や進路ガイダンス等で各自の進路意識を高め、課外等の個別の学習指導を計画する。 自主的に月・週ごとの学習計画を立てさせ、担任が面談を行い学習習慣の確立に向けて指導・助言する。 基本的学習習慣を身に付けさせ、欠席・遅刻者には個別に対応し、その減少に努める。	B B B		